



Title	「紛争概論×少年兵のメンタルヘルス」：紛争の終とは
Author(s)	関，淳一；吉村，翔平；内田，絵里
Citation	目で見えるWHO. 2015, 56, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86685
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「紛争概論×少年兵のメンタルヘルス」～紛争の終とは～

日本国際保健医療学会・学生部会(Japan Association for International Health - Student Section: 通称 jaih-s ジャイフエス)とは、学生を対象に「国際保健に関わる人材育成」に取り組んでいる学生団体です。全国の国際保健に関心を持つ様々な分野の学生に対して、幅広い情報や機会の提供を行い、将来、世界で活躍する人材を育成することで日本及び国際社会に貢献することを目指すjaih-sの活動は、国内外の健康につながる人材の育成を事業目的の一つに掲げる公益社団法人日本WHO協会の考えと一致するものです。

この趣旨をふまえて、今回で第4回目となる共催企画フォーラムを2014年9月27日に大阪市立大学文化交流センターで大阪コミュニティ財団／大阪信用金庫ふれあいスマイル基金からの助成も頂き、「紛争概論×少年兵のメンタルヘルス」～紛争の終とは～をテーマとして開催致しました。



現在、世界各地での様々な紛争の報道が後を絶ちません。幸い、日本では現在世界各地で起っている様な形での紛争を直接経験することはありませんが、グローバル化が進む中将来に向けて国際保健医療を念頭に置いている人達は勿論のこと、一般の国民も世界でのこれらの紛争の実態について正しい知識のもとに、自分の意見をもつことは、極めて重要と思います。

今回のフォーラムでは、紛争についての単なる総論的な意見交換でなく、国際的に大きな問題である少年兵(こども兵士)の実態について知識を深めて頂くと共に、「少年兵のメンタルヘルス」と言う具体的なテーマについて、参加者の方々に考えて頂き、意見の交換をして頂きます。

今回のフォーラムもこれ迄と同様に、テーマの選定、企画などは全てjaih-sの方々によって行なわれました。jaih-sの企画担当の方々から、最初御提案を頂いた時から、私は極めて時機に適った、しかも奥の深いテーマ内容であり、共催企画として是非成功させたいと強く思った次第です。

今回、非常に御多忙の中、当フォーラムの講師をお引き受け下さいました、小野圭司先生、小川真吾先生に、主催者を代表して心から御礼を申し上げます。

このフォーラムが、少年兵のメンタルヘルスと言う極めて厳しい問題を通じて、世界に於ける紛争について参加された方々が幅広い知識を得られると共に、紛争とは何かについても改めて考えられる機会となりますことを祈念いたします。

●開会の挨拶 日本WHO協会 理事長 関 淳一

日本国際保健医療学会学生部会(jaih-s)の方々と共催企画によるフォーラムも、今回で第4回となりました。

今回のテーマは、「紛争概論×少年兵のメンタルヘルス」～紛争の終りとは～です。

●開会の挨拶

jaih-s第9期代表 吉村 翔平

日本WHO協会との共催企画は2011年に初めて開催され、今年で4回目を迎えます。毎年ご好評をいただいております。今年もこのように開催できることを大変嬉しく思います。(公社)日本WHO協会のみなさまには日頃より多大なるご支援、ご協力を賜り、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、私たちjaih-sは「国際保健医療に関わる人材育成」を目標に2005年に設立された学生団体です。「ネットワーキング」、「大学では得られない学習環境の提供」、「多分野からの活動参加」を大きな3つの柱として、全国の学生に平等に国際保健医療の学習環境を提供すべく全国各地での勉強会や合宿などを開催しています。設立から9年目を迎えたjaih-sですが、第9期では、「最先端を知り、未来を開拓するjaih-s」をテーマに掲げ、国際保健医療分野での最先端を学ぶことを目標に1年間活動しています。

今回の勉強会では「紛争」と「少年兵のメンタルヘルス」について扱います。日本では全く馴染みのない紛争や少年兵ですが、現在も世界中の多くの国で紛争が行われ、数多く少年兵が未だに存在しているのが現実です。紛争地で一体どのようなことが起きているのでしょうか。紛争地で起きていることに一度も目を向けたことがない人もいるかもしれません。だからこそ、今回このような機会を作り、現実を目に向け、私たちに少しでもできることを考えてみたいと思います。もちろん正解はありません。一人一人が素直な意見を持ち、自分の意見をぶつけてみてください。きっとそこから新しい考え方が生まれるかもしれません。今日の勉強会が少しでもみなさまの学びの助けになることを願っています。

最後に、jaih-sはまもなく10年目を迎えます。このように国際保健医療に興味があるという共通点のもとに多くの方が集い、全国各地で勉強会を開催できることを大変嬉しく思っています。今後ともjaih-sをどうぞよろしくお願い申し上げます。

●開会の挨拶

企画担当 内田 絵里

私たちは日々の学校生活や何気ない時間に、少しの不満と少しの幸せを感じながら生きています。しかし、地球の裏側に注目してみると、私たちの置かれている状況がどれだけ幸せであるかを思い知らされます。

今回私たちが注目したのは紛争地域での「少年兵」という存在です。彼らは今も、家族を自分の手で殺されるよう強いられたり、銃を持たされたり、麻薬漬けにされたりと私たちの想像を絶する世界を生きています。紛争が終わっても、受け入れ先のない子どもは路頭に迷い、社会復帰する機会があってもトラウマに悩まされる日々を送る子ども達について学ぶうち、彼らの心の健康を取り戻すために外部の人間には一体何ができるのかという疑問が沸き起こりました。

そこで、この疑問について考えるべく本日はメンタルヘルス・少年兵・紛争といったキーワードを基に勉強会を展開して参ります。先生方によるご講演から世界で起こっている紛争の現状や少年兵との実際のかかわりについて学習した後は、「紛争の終とは」という難しい問いかけに共に挑戦してみましょ。本勉強会が、参加者の皆様が今後国際協力を考える際に、相手の心に寄り添う方法についても考える一助となりましたら幸いです。

最後となりましたが、本勉強会開催にあたり準備段階よりご協力を賜りました小野先生、小川先生並びにご協賛頂いております公益社団法人日本WHO協会の皆様、関係者各位にこの場をお借りしまして心より御礼申し上げます。

簡単ではございますが以上で挨拶と致します。

それでは、本日は一緒に「少年兵の心」によりそい、そして「紛争の終」について共に考えていきましょう。